

平成16年度事業報告

1. 卒業生に対する活動

(1) クラス会開催の促進・支援

平成16年度のクラス会等の開催状況は、次のとおり。

単独クラス会：24件

合同クラス会：5件

縦の会：3件（建築学科「ABUの会」、「建設工学科鳩粹会」及び「短大縦の会」）

それぞれ開催されたクラス会等に対し、規定に従って通信費の補助並びにお祝金を支給した。

なお、ABUの会及び短大縦の会には同窓会も招待され担当の役員が出席した。

(2) クラブOB会、研究室OB会活動の促進・支援

クラブOB会及び研究室OB会の開催状況は次のとおり

単独クラブOB会：8件

合同クラブOB会：3件

単独研究室OB会：5件

合同研究室OB会：2件

小金井寮OB会：1件

それぞれ開催されたOB会に対し、規定に従って通信費の補助並びにお祝金を支給した。

クラス会・クラブOB会・研究室OB会の開催状態は例年並といえるが、昨年から新卒業生の卒業式当日のクラス会(謝恩会)援助申請に関しては、規定に該当していないこともあり支給を見合わせたことから、クラス会援助関係費用は適正な支出になった。

また、平成16年度から同窓会ホームページを利用したオンライン申請もスタートし、これまでより容易な援助申請が可能となった。

(3) 縦の会代表者交流会の実施

縦の会（学科別同窓会）代表者交流会を平成17年1月29日（土）如水会館において開催した。

交流会は同窓会会長が挨拶並びに同窓会活動の現況を説明したあと、各縦の会の代表者からそれぞれの活動状況について報告を受けた。

各代表者からは建設的な意見があり、交流会は終始和やかな雰囲気が進められた。

また、校友会からも常務理事及び課長が出席し、校友会の現況報告並び

に学園創立100周年記念募金への協力要請などがあった。
なお、縦の会代表者交流会出席者は次のとおり。

工専：竹内 保氏、水井和夫氏
E科：川田一美氏
C科：神戸康吉氏、世古名知夫氏
D科：正木 進氏
M科：(欠席)
S科：(欠席)
P科：西村一郎氏
A科：森本正人氏
短大：岡田榮一氏
R科：(欠席)
J科：(欠席)
K科：(欠席)
G科：西田徳行氏
N科：(欠席)
F科：大越泰晴氏

大学同窓会役員：5名
校友会：2名（常務理事、課長）
計：18名

(4) 地方支部・県支部活動の促進・支援

例年開催される地方支部・県支部総会に出席するとともに同窓会活動の現況を報告し各支部会員に同窓会活動の理解を頂いた。

また、懇親会において各支部会員との交流を図り引き続き同窓会活動への協力・支援をお願いした。

地方支部・県支部は、県単独で毎年開催するのでは会員の固定化やマンネリ化が進むため、隔年あるいは隣県との交互開催で参加会員の拡大を図る方法が多くなっている。

また、地域として各支部グループでの開催を企画し幹事県の持ち回りで共同開催するなどの傾向にもある。

一方、異なった支部との交流を図る活動も計画されるなど、活動の変化が見られるようになっている。

各支部総会等行事への会員の出席人数をいかに増やすかなどの悩みも多く、いずれの県も同じ問題に苦勞していることが窺える。

また、往復はがきなど郵便による案内をしても回答が得にくいこと及び通信費に対する費用対効果を考慮し、少しずつIT化を進め、電子メールを活用する地方も増えている。

ただ、年輩者などアドレス未登録の方も多く、また、登録されてもそのアドレスの情報入手にも通信費がかかるなど悩みが絶えない。

大学同窓会としても、今後校友会と協力し会員のアドレス提供などの支援を図っていきたい。

本年度の総会開催支部は次のとおり。

平成16年

埼玉	5月29日	岐阜	5月30日
茨城	6月5日	神奈川	6月9日
千葉	6月12日	石川	6月19日
群馬	6月20日	新潟県央	7月4日
青森	8月7日	新潟	8月21日
宮城	10月9日	鹿児島	10月30日
愛知	11月3日	香川	11月6日
山陰	11月6日	山形	11月13日
福岡	11月22日	徳島	11月27日

平成17年

愛媛	1月22日	山陽	3月12日
山梨	3月13日		

(5) 広報活動の充実

・校友会のしおりの更新

「校友会のしおり」を媒体とした広報活動を充実するために、しおりに記載されている大学同窓会活動内容の更新と学園連絡先及びキャンパス案内等のリニューアルを行い、卒業生が同窓会及び学園と容易に接触できるように改善した。

また、同窓会総会・支部総会・OB懇談会・父母懇談会・クラス会・卒業式等が開催される際に配布し、同窓会活動の広報に努めた。

・ホームページの刷新と利活用の促進

平成16年度は大学同窓会ホームページの大々的なリニューアルを実施し、ほぼ1年かけて卒業生に懐かしさを感じさせるイメージを前面に出し、使いやすいホームページを作成した。

クラス会の活性化を促進するために、ホームページリニューアルの目玉でもあったクラス会援助のオンライン申請システムも完成し、現在運用している。

今後の課題として、ホームページの利活用の促進を図るため掲示板等の書き込みが更に伸びるような工夫をしていく。

なお、ホームページの新コーナー（こんなことができます、こんな人いませんか？コーナー）については、具体的内容を検討中である。

・取材活動の推進

同窓会幹事によって構成するホームページ委員により、学園理事長、学長、校友会理事長への取材を行うとともに準会員（在校生）が活躍するNHKロボコンやフォーミュラーSAE、エコラン等の競技会等も精力的に取材し、同窓会や学園の活動状況をホームページ上に公開した。

今後も更に大学同窓会及び学園のPRになる分野の内容を積極的に充実していく。

（6）大学院縦の会設立準備

昨年度の短大縦の会設立に引き続き大学院縦の会（仮称）の設立を計画した。

現在縦の会は短大を含め学科ごとに設立されているが、他大学の学部を卒業し改めて東京電機大学の大学院に入学・卒業した卒業生も多く、こういう卒業生の交流の場を設けたく、昨年度同窓会から一部の方に声をかけたことがきっかけで理工学部を中心に大学院卒業生の会を設立する声が沸きあがった。

この機を利用し、本年度は、予算を設定し設立準備会の開催を計画した。

齊藤同窓会副会長を中心にお忙しい理工学部の先生方にご無理お願いし準備を進めた結果、平成16年11月20日(土)神田キャンパス11号館17階職員食堂において第1回準備会を開催するに至った。

準備会では、大学院縦の会設立趣旨や経緯を説明し集まった卒業生の皆さんに設立の同意を仰いだが、設立趣旨及び会の構成等についてもう少し煮詰めた上で再度参集することになった。

現在、次年度に第2回準備会を開催するべく準備を進めている。

（7）講演会・講習会への協賛

前年度に引き続き計画したが、本年度も協賛に該当する講演会あるいは講習会等が得られず実現しなかった。

今後この事業については、適切な講演会、講習会を広く調査した上計画するか、あるいは校友会、地方支部などの行事に協賛するなどを検討していく。

（8）大学厚生施設利用への協力

卒業生による大学の厚生施設利用については、校友会による工学情報への案内等で対応した。

また、校友会が進める本学卒業生が経営する厚生施設の拡充に協力するべく活動を進めたが、残念ながら該当する卒業生や適当な情報を入手することができず、適切な物件を提供することができなかった。

今後は、大学同窓会として単独で活動するのではなく地方支部・県支

部との交流の中で校友会活動の一環として協力していく。

(9) 若手卒業生への働きかけ

若手卒業生の大学同窓会への関心及び参画を促す意味で、社会において優秀な成果のあった若手卒業生を同窓会が表彰する大学同窓会賞を企画したが、その方法や選定基準などの企画案の設定が十分準備できず、また、成果の情報を得る手段もなく不本意な結果となった。

今後は時間をかけて企画案等を準備するとともに情報の入手を図り、実のある活動にしていきたい。

また、若手卒業生クラス世話人会の交流についても例年どおり企画したが、活動の具体的推進が思うようにできず計画倒れに終わった。

次年度は若手卒業生のクラス会開催状況を調査の上、クラス間の交流あるいはクラス会活性化方法を検討し実現への努力を図っていく。

2. 在校生に対する活動

(1) 丹羽賞・同窓会奨励賞の授与

丹羽賞は、初代学長の丹羽先生から同窓会に寄せられた基金を元に準会員〔在校生〕の課外活動で優秀な成績を上げた学生団体を表彰するものである。

今年度は、全般に大きな成果の得られた団体は少なく活動は低調気味であったが、従来なかった情報環境学部からのエントリーを要請した結果、適切な表彰推薦団体があり、これを含め丹羽賞3団体、同窓会奨励賞9団体を選定し表彰した。

丹羽賞、同窓会奨励賞ともできるだけ多くの団体を表彰することで在校生の活動を側面から支援し活動の活性化を図るよう配慮するとともに在校生に大学同窓会の存在を強くアピールするように務めた。

表彰した団体は次のとおりで、情報環境学部を含め工学部は平成16年10月30日の錦祭OB交歓会において、理工学部は同年11月7日の鳩山祭後夜祭においてそれぞれ表彰並びに賞金の授与を行った。

丹羽賞

空手道部〔工学部一部・体育会〕
少林寺拳法部〔工学部一部・体育会〕
バレーボール部〔理工学部・体育会〕

同窓会奨励賞

柔道部〔工学部一部・体育会〕
陸上競技部〔工学部一部・体育会〕
アマチュア無線部〔工学部一部・学術研究会〕

コーストジャズオーケストラ〔工学部一部・文化部会〕
舞踏研究会〔工学部一部・文化部会〕
応援団〔理工学部・体育会〕
軟式野球部〔理工学部・体育会〕
アーチェリー部〔理工学部・体育会〕
軽音楽部〔情報環境学部・文化部〕

（２）助け合い基金の運営

助け合い基金は約５００万円の原資で準会員（学生）を対象に１万円を限度として、無利息で短期貸出を行う制度で、学園に委託して実施している。

今年度は、貸付総件数１，２１１件（総額 10,703,300 円）と多くの利用があり、学生に大変人気のある制度である。

また、返済が滞るなどにより回収不能金が発生することもあるが、本人への再三にわたる督促、呼び出し、自宅や保証人への文書による督促など学園担当部門の辛抱強い努力によりほぼ回収されている。

（３）卒業記念品の贈呈

例年どおり平成１７年３月１８日の工学部・理工学部及び情報環境学部の卒業式において２，３５７名（学部卒業１，９９７名，大学院修了３６０名）の卒業生に、校友会との共同で証書挟み（学部、短大）又は丸筒（大学院）を記念品として贈呈した。

（４）学園祭，体育祭行事への補助

平成１６年５月３０日、鳩山キャンパスにおいて開催された合同体育祭には約１，０００名〔学生約９００名、教職員約５０名、来賓約５０名〕の参加があり、同窓会からも役員が出席し同窓会杯の表彰、賞品等の補助を行った。

同年１０月１０日には千葉ニュータウンキャンパスにおいて情報環境学部秋葉祭が開催され近隣住民も参加し総勢２万人余の参加があった。

同年１０月２９日から３１日の３日間に開催された工学部錦祭には卒業生、在学生及び教職員など約３千名の参加があり、最終日の３１日には同窓会主催及び補助によるＯＢ交歓会を開催し丹羽賞、同窓会奨励賞の表彰とともに同窓会役員、ＯＢとともに在校生との交流を図った。

また、鳩山キャンパスの理工学部が開催する鳩山祭には近隣の住民を含め約１万２千人余の参加があり、最終日の１１月７日には後夜祭が開催され大学同窓会から理工学部分の丹羽賞、同窓会奨励賞を表彰するとともに在校生との交流を図った。

（５）在校生との交流

- ・ 各種競技会への支援

平成 16 年度には在校生による次のような全国的な学生競技大会への参加がありそれぞれの活動への資金援助を実施するとともに同窓会役員や幹事が応援や取材に駆けつけるなど、学園の広報活動に一役買った。

秋田ソーラーカーラリー	平成 16 年 7 月
フォーミュラーSAE 国際大会	平成 16 年 7 月
NHK 大学ロボコン	平成 16 年 7 月
ホンダエコラン	平成 16 年 10 月
スターリングエンジンカー	平成 16 年 11 月

- ・ アイデアコンテストへの支援

経営同友会が企画するアイデアコンテストに大学同窓会が協賛し、経営同友会に資金協力した。

審査の結果、優秀賞 3 組、努力賞 2 組、技能賞 2 組、大学同窓会賞 1 組、産学交流会賞 1 組、参加賞 4 組が選定された。

本年度の大学同窓会賞は「踊る大操作カメ～マイコン操作による玩具～」で、各賞の選定にあたり、同窓会からも役員が審査員として参画するとともに錦祭で実施された表彰式に出席した。

- ・ 大学院論文発表会への支援

今年度は、平成 17 年 2 月 21 日に開催された工学研究科の博士、修士論文発表会に対し協賛し支援した。

大学同窓会からは必要費用の一部を補助した。

- ・ 卒業生による特別講義への協力

学園からの要請などに基づく卒業生による特別講義への協力を企画したが、学園側からの適切な要請、希望もなくまた、卒業生側のデータも十分でなかったことから特別講義の実現には至らなかった。

今後、適切な講義対象の卒業生を開拓するとともに学園側から要請があれば対応していく。

3. 母校に対する活動

(1) 卒業生による就職セミナーの開催

平成 18 年 3 月に卒業を予定している準会員〔在校生〕に対して卒業生が就職活動に関するアドバイスを行う「卒業生による就職セミナー」を学園と共催して平成 17 年 2 月 26 日（土）午後 1 時からホテルグランドパレスにおいて開催した。

面談方式を昨年同様 2 部形式とし、前半を鳩山キャンパスの理工学部

及び千葉キャンパスの情報環境学部の学生、後半を神田キャンパスの学生として面談の効率化を図った。

また、当日、会場での学生に対する指導・誘導及び学生への助言等の協力を各キャンパスの教員に要請した。

セミナー後に行われた懇親会の場においては会長挨拶において各企業での新入社員歓迎会の開催及びそれをきっかけに企業OB会の設立、職域電機会の設立を要請した。

参加した同窓会役員・幹事からは、各企業卒業生に対し本セミナーをはじめとした同窓会の様々な活動がより活性化されるよう協力を要請した。

当日の参加企業数は211社、参加企業人員数422名および参加準会員数〔在校生〕は昨年とほぼ同数の約1,300名であり、このセミナーが準会員および卒業生にとって大変有意義なものであることを再確認した。

学生の誘導方法に関しては年々改善されているものの、1,000名を超える学生をスムーズに誘導することは難しく、次回には改善を図り、学園側と協力して円滑な運営を企画する。

(2) 父母懇談会への協力

父母懇談会は、大学後援会の主催で学生の父母を対象に担当の教員が学生の学業状況や父母からの質問に答える形で開催されるもので、本年度も平成16年9月から11月にかけて全国10都市及び各キャンパスで開催された。

この父母懇談会には大学同窓会役員も参加し、学生生活や就職状況など父母からの質問に対応し好評を得た。

また、同窓会活動について説明しPRを行うとともにご負担頂いている同窓会活動費用の運用について理解をいただいた。

例年同窓会からは地方会場のみに参加していたが、今年度はキャンパス会場への参加も要請され役員を派遣した。

しかし、学園及び後援会側の準備不足等もあり、同窓会のPRをする機会もない状態があったため、キャンパス会場については今後同窓会の立場を明確にし十分な準備をした上で参加する。

今年度開催された父母懇談会は次のとおり。

地方会場

高崎（9月18日）	広島（9月23日）
仙台（10月9日）	金沢（10月16日）
甲府（10月16日）	新潟（10月24日）
名古屋（11月3日）	高松（11月23日）
福岡（11月23日）	札幌（11月28日）

キャンパス会場

工学部1部（11月27日） 工学部2部・短大（10月23日）
理工学部（11月6日） 情報環境学部（10月23日）

（3）Home Coming の集いへの協力

学園主催で毎年開催される卒業後5年毎の卒業生の集いである「ホームカミングの集い」が今年度も開催された。

今年度は平成16年12月11日（土）、九段下のホテルグランドパレスにおいて開催された。

今年度は、昭和19,24,29,34,39,44,49,54,59年及び平成元年、6,11年の短大、大学、大学院の卒業生が該当し、約340名の卒業生が集まった。

同窓会からは該当卒業年の役員及び会長が出席し、クラス会活性化の要請並びに校友会への入会促進を図った。

（4）インターンシップへの協力

準会員(在校生)への支援活動のひとつとして学生の各企業での就業経験をカリキュラムの一部として実施するインターンシップへの協力・支援活動を計画したが、担当卒業生がいる該当企業の候補が見つからなかったこと及び学園側からの具体的な要請がなかったため実現することができなかった。

引き続き担当卒業生がいる該当企業及び学園又は担当教授からの同窓会への要請状況等を監視し、適切な案件があった場合協力していきたい。

4. その他の活動

（1）参与会・幹事会等の開催

平成16年度の大学同窓総会を平成16年4月10日（土）神田キャンパスにおいて開催した。

総会において、平成15年度の事業報告、決算報告及び会計監査報告を行い承認された。

さらに平成16年度の事業計画案及び予算案を審議し承認された。

また、下記の日程で役員会・幹事会等を開催し、同窓会活動を計画するとともにその内容について審議を行った。

平成16年

4月2日役員会（会計監査）	5月25日幹事会
7月6日幹事会	7月19日ホームページ委員会
9月14日幹事会	10月6日丹羽賞選考会
11月9日幹事会	11月24日ホームページ委員会

平成 17 年

1 月 2 5 日幹事会

3 月 1 7 日役員会

3 月 2 3 日幹事会

上記以外に、必要に応じて電子メールを利用した審議を行い、ITを活用して費用の節約を図り役員会に代えた。

また、平成 16 年 7 月 2 4 日に鳩同会・参与会、同年 1 2 月 4, 5 日に校外幹事会・参与会を開催し、参与の方々に同窓会の現況等を報告するとともに、同窓会の活動に対するご意見を伺い今後の運営に反映させることとした。

なお、校外幹事会には開催地の支部の方にも参加していただき各支部活動の活性化の支援を図るとともに同窓会活動の広報に務めるよう計画した。

今年度の校外幹事会には栃木県支部の役員 4 名が参加しお互いの意見の交換をはかり交流を含めた。

(2) 校友会の運営に参画

大学同窓会から東京電機大学校友会に理事として 6 名を送り出し、校友会活動の運営に協力している。

各理事は校友会の通常の運営のための理事会議への出席、校友会のしおり及び工学情報の編集などの委員会参画、全国支部長会、職域電機会への出席などにより校友会の活動の一翼を担った。

また、ホームカミングの集いや就職セミナーにおいては、校友会への加入促進や、職域電機会の設定を要請するなどにより校友会活動の発展に協力した。

(3) 中学・高校同窓会、電機学校同窓会等との交流

電機学校同窓会総会（平成 16 年 4 月 1 7 日）、東京電機大学商工懇話会第 1 0 3 回総会（同年 5 月 8 日）、東京電機大学校友会総会（同年 5 月 1 3 日）、東京電機大学中学・高等学校同窓会総会（同年 5 月 1 5 日）、東京電機大学商工懇話会（第 1 0 4 回）秋季総会（同年 1 0 月 4 日）に大学同窓会役員が出席し、同窓会活動の近況報告を行うとともに意見交換などにより交流を深めた。

また、平成 1 7 年 1 月 1 5 日には三同窓会役員懇談会を実施し、1 0 0 周年記念募金の取り組み等について話し合い、今後とも 3 同窓会の連絡を密にし協力体制を維持していくことを確認した。

(4) 歴代会長会の開催

今年度も例年どおり歴代会長との交流会を計画したが、鳩同会・参与会や校外幹事会・参与会で交流できることもあり、改めて歴代会長会の具体的な開催には至らなかった。

今後は、他の参与会との関係や歴代会長との交流により期待される成果を考慮し、有効な手段を計画していきたい。

(5) 学園理事及び教員との懇談会の開催

今年度は、理事長及び学長など主要人事の交替があり学園側も業務が輻輳したため、懇談会を計画することができなかった。

ただ、HPへの掲載を目的に新理事長並びに新学長へのインタビューを実施するとともにお二人にはそれぞれ定例幹事会に出席頂き就任の抱負を述べていただくなど役員、幹事との交流を図った。

また、幹事会においてNHK 大学ロボコンや鳥人間大会のようなアドバンスト・ワークショップの廃止及び同窓会の今後の支援について学園側の担当部門と意見交換を行った。

今後は、学園の動向等を見極め大学同窓会としてどのような立場から学園側に提言ができるかなど具体的な内容を取りまとめた上で計画することとする。

(6) その他